

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 中根 愛

論 文 題 目

日本における子育て目標と行動の調整に関する研究

論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 三輪 和久

委 員 名古屋大学教授 川合 伸幸

委 員 名古屋大学准教授 北神 慎司

委 員 名古屋大学客員教授 小林 哲生

子育ては高負荷のケアを強いられる上に連続した意思決定を伴う行動であるため、子育て行動の選択に難しさを感じる親は多い。また近年、インターネットの普及により子育て情報が増大し、選択肢の過多による選択の困難さや選択後の満足度の低下、さらには子育ての迷いや不安につながるケースも多い。本論文では、親の子育て行動の選択における支援を念頭に置き、子育て行動に影響を与える要因の1つである「子育て目標 (parenting goal)」(研究1, 2) と、親子の双方向コミュニケーション場面における行動調整(研究3)という点から心理学的調査に基づく結果を報告している。

第1章(序論)では、本論文のテーマである子育て目標に関する先行研究を概観し、世界各国の文化間比較から子育て目標の分類における普遍性と特異性を整理している。また研究手法による違いを紹介した上で、日本における子育て目標研究の現状を言及しながら、未解決の部分を明確にし、本論文の目的が明確に提示されている。

第2章(研究1)では、日本の親が有する子育て目標の全体像と構成要素を把握するため、親を対象としたインタビュー調査の結果を報告している。質的データの分析手法であるM-GTAを用いて分析した結果、子育て行動の背後に長期目標と短期目標があり、長期目標の先には親の思う「良い人生像」があるという構造を見出している。長期目標は6種類あり、「やりたいことをやりながら生きる人」「自分の人生を主体的に生きる人」「他人のために行動できる人」「社会の一員としてまっとうに生きる人」「周囲の人から理解・協力を得られる関係」「家庭を頼りにできる関係」であった。

第3章(研究2)では、研究1で見出した子育ての長期目標を測定可能にするための質問紙尺度の作成を行っている。質問項目は「どのように育ててほしいか」に関する自由記述と、研究1から得られたインタビューの回答から、167項目を初期プールとして作成し、765名の親を対象とした回答結果から項目分析及び因子分析を行った結果、「個人志向の能力向上」、「親との関係性」、「周囲からの承認」、「他者への感情」、「生活への真面目さ」の5因子が得られ、全41問からなる質問紙を完成させている。さらに674名からの回答を取得し確認的因子分析を行った結果、CFI, RMSEA, SRMR, AICすべての基準値で1因子モデルよりも5因子モデルが当てはまりがよく、本質問紙尺度の妥当性が示されている。

第4章(研究3)では、連続的な双方向コミュニケーションの具体例として絵本の読み聞かせに着目し、読み聞かせ活動の中で生じる親の行動とその行動の関連要因について検討している。行動観察とインタビューを組合せた分析により、親は読み聞かせの中で見られる子どもの反応から、「子どもの成長・発達に関する価値」「今ここの子どもに関する価値」「今ここの自分に関する価値」を見出していること、またそれは親のポジティブな感情をもたらすこと、さらに親はこれらを強化するように読み聞かせの中で子どもへの働きかけを変化させていることなどを明確にしている。

最後に第5章(総合考察)では、本研究結果の学術的な位置づけと発展可能性についての今後の課題について述べ、本論文を総括している。

本論文は、質的調査と量的調査のハイブリッドなアプローチから日本における子育て目標と行動調整に関する新たな見識と枠組みをもたらしており、作成された質問紙尺度は応用可能性も高く、その学術的価値は高いと考えられる。これらの点から、審査委員は、全員一致で、中根愛氏が、博士(学術)の学位を授与されるに十分な資格を有するものと判定した。